

おかげさまで「フジ住宅」は、創業45周年を迎えました。

フジ住宅株式会社 代表取締役社長 宮脇宣綱



当社は今年1月22日に創業45周年を迎えます。創業者で現会長の今井光郎は「お客様に幸せになっていただくこと」を事業の目的に、「社員のため、社員の家族のため、顧客・取引先のため、株主のため、地域社会のため、ひいては国家のために当社を経営する」を経営理念として、フジ住宅を今日まで経営して参りました。このたび本誌『致知』に、2回にわたり「家族からはじまる物語」を連載させていただき、会長今井の生い立ちやバックボーン、創業の理由、お客様に対する想い、社員に対する想い等々、ありのまま気持ちを感じ取って頂きたいと存じます。

学に行き、一流企業に入ることが夢でした。幸いにも高校進学は許されましたが、通った先は工業高校。卒業後、すぐに就職することが絶対条件でした。

高校を出たあとは繊維会社の設計や航空管制官などの仕事を経験しましたが、転職となったのは24歳のときです。当時、私は結婚もして、ある不動産会社に就職しました。そしてこれと時を同じくして、実家の長兄が結核にかかってしまったのです。

その頃、結核といえば大病でした。多額の入院費用がかかるだけでなく、家計を支えていた兄が倒れたことで、代わって私が家族の生活を背負うことになりました。一番下の妹はまだ高校生。なんとしても卒業させなくてはなりません。

就職した不動産会社は入社3ヶ月目までは固定給、その後歩合給となる予定でした。私はまだ入社して3週間たらず。にもかかわらず、営業会議の席上、すぐに営業の第一線に出してもらえよう願ったのです。私にはとにかくお金が必要でした。

内気な今井に営業は向かないよ。友人からはそう言われました。正直、私自身もそう思っていました。が、悩む暇などありません。私は人の倍働く

と決めました。帰宅は深夜12時過ぎ。休日もとらず、まさに寝食を忘れて仕事に打ち込みました。そして気づけば、営業に自信のなかった私が、常にトップセールスをあげ続けていました。

もちろん、これは私ひとりの力ではありません。夜更けまでチラシを作ってくれた妻。彼女が後に笑いながら、「生活が苦しいとき、こっそり嫁入り道具の着物を質に入れた」と話してくれたときは、ほんとうに涙がこぼれそでした。

家族のためだから、がんばれた。家族がいたから、がんばれた。私はもとと平凡な人間です。ましてや会社を興すなど、思いもよらなかつた。けれど、家族という存在があったからこそ、私はここまで歩いてこれました。思えば、フジ住宅という種をまいたのは、私ではなく、私の家族だったのかもしれない。

家は、家族をはぐくむ揺りかごなんだ。

昭和48年1月、私はフジ住宅を創業しました。不動産会社の営業マンとして、たくさんのお客様に家をお売りして、仕事には大きな自信が

ました。けれど、その自信がフジ住宅を生んだわけではありません。

フジ住宅を生んだのは、悔しさです。当時の住宅業界は品質責任についての意識が非常に低く、販売後にトラブルが発生しても、なかなか無償修理を受け付けてくれませんでした。しかし、私には売った者としての責任があります。

1〜2万円程度の修理代であれば、自分の給料から出しました。ただ、それが何十万円もの金額となつては、とても払うことはできません。それは結局、私を信頼して下さったお客様への裏切りです。その悔しさこそが、私の創業の原点でした。

家とは、家族をはぐくむ揺りかごなのだと思います。安心して暮らせる家があるからこそ、本気でケンカもできます。腹の底から笑い合えます。そうやって、家族がだんだん家族になっていく。それがほんとうの家ではないでしょうか。

家族をはぐくむ家を届けたくて、私は会社をつくりました。それがフジ住宅です。

(次号へ続く)

フジ住宅 創業の精神

家族からはじまる物語 ①

※「家族からはじまる物語」は、新卒採用の会社説明会において、学生の皆さんにご覧いただき、会社、創業者今井について理解を深めていただくために平成20年に作成したものです。

会社が一冊の本であり、物語であるなら、フジ住宅の1ページ目には、家族の風景がきざまれています。

その木は、家族という種から芽吹きました。

フジ住宅代表の今井光郎です。創業当時、わずか数名の小さな芽で

「おかん、泣かんといて」

終戦の直後（昭和20年12月30日）、私は大阪で6人兄弟の4番目として生まれました。もともとは裕福な家だったのですが、戦争で財産のすべてをなくしました。戦後は仕事もなく、父は定職につけない。そんな

これからフジ住宅のはじまりについてお話をします。それにはまず、私自身のお話からはじめる必要があるようです。ほんの少しいだけ、昔話におつき合ってください。

創業者・会長 今井光郎

しかなかった私たちも、いつしか一千名近くの方々が働く大きな木へと育ちました。

いま、その木をあらためて見上げるとき、思うのです。じつはフジ住宅の種とはずっと昔にまかれ、土の中で長い間その芽吹きを待っていたのではないかと。

「アニキ、代わりにおれがやる」

貧しさから抜け出したい。中学時代はその思いから、一流高校、一流大

ある夜、こんなことがありました。私がまだ5歳のとき、眠っていると隣の部屋から話し声が聞こえてきます。目をこすって耳をそばだけると、母のすすり泣きでした。家族が食べた長兄に学校を辞めて働きに出てほしいと懇願していたのです。

兄は結局、中学を辞めて鉄工所に住み込みで働きはじめました。月1回の休みになると給料を全部家に持ち帰り、母には巻き寿司を、弟の私たちには駄菓子を買ってきてくれました。そんなふうでしたから、上の兄弟姉妹たちは皆、高校には進学できませんでした。

私自身も家の手伝いが日課です。学校が終わると、八百屋をはじめた次兄のもとに駆けつけて野菜が山と積まれたリヤカーを押す。そんな子ども時代でした。

家族が日本で一番愛する場所を。

フジ住宅

中古住宅 土地有効活用 分譲住宅 サービス付き高齢者向け住宅

幸せはこぼれまわります

東証一部上場 〒596-8588 大阪府岸和田市土生町 1-4-23 TEL:072-437-9010
<https://www.fuji-jutaku.co.jp/>
 健康経営銘柄 2016・健康経営優良法人 2017(ホワイト500)に認定されました